

提案者	題名	分類	内容
A	納得して自然に継承される景観であることについて	河川の利用	<p>鴨川流域懇談会の報告にある鴨川の景観を、どのように整えていくのかを議論するものと考えます。現在の計画では景観をどのようにしていくことにしているのでしょうか。</p> <p>1. 花の回廊や、鴨川公園、出雲路橋付近の桜古木などの維持や更新の見通しをアピールする方法を工夫して、府民が個人的にもすすんでお手伝いできる状況にもっていくことを提案します。 (将来、多くの人が「この桜はお母さんが若い時に植えたもの」などと言って親しめる公園になれば、維持管理も自然にすすむでしょう。また、鴨川の状況や将来像のアピールを通じて、鴨川の防災・危機管理に関する必要情報も周知されていくものと期待されます。)</p> <p>2. 花の回廊に水辺であることの要素を加えることを提案します。水辺に彩りを加えて、石積みの護岸を美しく見せる方法を論じたいと考えます。具体的には、護岸下の寄り洲沿いに、菖蒲・かきつばたの類を配することを提案します。*</p> <p>(※ 菖蒲・かきつばたの類は、護岸を屏風にみたとすると光琳のイメージが、また上流の太田の澤では天然記念物にもなっており京都ならではの由緒にも不足ないと考えます。不都合が生じても、簡単に撤去できることも利点でしょう。水位が上がって流されることもあるでしょうが、とくに危険なことにはならないと思われまます。河川の中に手を入れることには問題があるでしょうか。ちなみに、千葉県佐原市(地元の伊能忠敬さんが若い時に活躍した街)では季節になると、川や水路と家々の玄関先の水鉢に映かせたかきつばたが美しく、観光客まで集めていました。)</p> <p>賛同者を得て住民活動に委託することができるでしょう。 成果の見える事業に参加された方々は、鴨川を擁護する要員になっていただけるものと期待されます。</p>
	行事をおこなえる場所として鴨川(公園)を演出することについて	河川の利用	<p>鴨川を、昼休みの時間を使って楽しめる空間にしたい、何ができるのか議論したい。たとえば</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏の日差しを遮ってくれる木陰を作る。 ・ベンチに食事に使う机になるものを加える。 ・春～秋の季節には、河原で定期的に野外吹奏楽団(など)を招く行事を開く* ・大きな橋の下の占拠者に移動してもらい、屋根付き空間として、パフォーマンスや様々な練習などに開放して、公園として健全なものにする。 ・行事使用を希望する場合の、利用方法(使用申し込みなど)を府民が十分に承知していることが必要で、そのアピール方法を考えたい。 <p>(※ 先の啓発パレードにありましたような音楽隊の吹奏を鴨川で楽しむことも想像します。東京都の日比谷公園では、都民コンサートとして警視庁音楽隊(水曜日正午～)と東京消防庁音楽隊(金曜日正午～)の野外演奏会がおこなわれており、多くの人とともに文字どおりのオアシスとして楽しみました。鴨川は京都の中心を流れており、昼の人が集まる場所としても都合が良いと考えます。)</p>

提案者	題名	分類	内容
B	上流域の景観を損ねている現状について	河川環境	先日、「川とまちの寄り合い会議」(主催 NPO法人子供と川とまちのフォーラム)を傍聴しました。子どもたちの一番人気は高鼻川でした。自然の中にある川で、鴨川上流域に近い感じでしょうか。鴨川環境保全区域が設けられたことは、とても嬉しく高く評価しています。しかし、高橋からさらに北に歩くと高いトタン風の塀や高い石垣に囲まれ、賀茂川をみることも近づくことも出来ません。少しずつでも復元できないでしょうか。
	水質検査をBODと併せて簡易調査法(珪藻類、水生昆虫による)を行うことについて	河川環境	流れの早い川で、BODだけの値で、きれいな水質と判断できないと思います。2000年4月から行っていると聞く、環境省水質保全局の水生生物による調査データ(賀茂川の)は見ることが出来るのでしょうか。府主催の子供の観察会(夏)の結果記録は残っているのでしょうか。 支流の汚れをどうするか。雨後の川の臭いは何だろう。 (北大路橋南にウシガエルの鳴き声がする他いろいろで私は少し汚れた川と位置づけています)→水生生物の専門の方又は環境省のお話を聴きたい。
	少し雨が降るだけで、大河の様相になるのは…	河川環境	治水、利水はこんなに気候が不順では、大事なことと思いますが、どんなご苦労があるのか教えていただきたい。
	川の内外の外来種について	自然生態系	寄州のセイウカラシナ(春)、セイトカアワダチソウ(秋)が群生して富栄養化も思わせますが、河川敷のオオバコも外来種、上流のチュウゴクサンショウウオもなかなか興味深いことです。
	鳩の餌やり(増えすぎ、アレルギーなど)	自然生態系	鳩やカラスが増えすぎると、いまの鹿と同じで環境が変化してくるのでは
	ゴミはなるべく持ち帰る(カラス対策)	河川の利用	
	堰堤の数と形状について	河川環境	高野川:宝ヶ池「子どもの楽園から出町三角州間、約14カ所。 鴨川:終野ダムから出町三角州間、約30カ所。 宝ヶ池とほぼ同じ標高の御蔭橋から出町三角州間、約23カ所。 上は両川の堰堤の数です。 「鴨川は高野川より汚い」の原因の一つに、水量が少ないうえに沢山の堰堤で流れが悪くなり、水質の悪化をまねいているのではと考えています。また、魚が超えられる堰堤の高さはどれくらいなのか。十分な調査をしていただき、鴨川に合った堰堤の数や形状を見直して「京の川」のイメージにふさわしい川造りをして頂きたいと思っています。 また、鴨川条例策定時に下水をオーバーフローした汚水を川に流す件が指摘されているが、京都市との協議はどうなっているのでしょうか。

提案者	題名	分類	内容
C	中州、寄州の整備について	中州管理	「京の川づくり」とは優美なイメージですが、草刈り後の中州、寄り州は「優美」とはほど遠い「無惨」のイメージを受けます。 おそらく経費をおさえられたと思いますが、刈った草を集める為にパワーシャベルが縦横無尽に走り回り、キャタピラにズタズタにされた州。「京の川づくり」というスローガンにふさわしい整備の方法は無いのでしょうか。
	鴨川四季の日イベント「ふれあい川歩き」提案	河川の利用	「鴨川四季の日(夏)」にふさわしい川とふれあう「ふれあい川歩き」イベント。 三角州から荒神橋の亀石まで川の中を歩きます。(この区間はホタルが生息している) ザリガニや川の虫を見つけるのも良いし、川で一日を遊ぶ企画。対象は子どもから大人。小学校3年生までは父兄同伴。子どもはライフジャケット着用。(これが楽しい) 川から見る町の風景は新鮮だし、流れる水に入るのは結構いやされます。
	ホタル生息地の明るさについて	自然生態系	街灯は防犯上必要だと思いますが、ホタル生息地付近では明るすぎるかなあと思う場所があります。ご存知のようにホタルは点滅する光を求めて飛び、繁殖します。街灯を少し暗くすると、街灯の種類を変えて明るさをおさえる等の対応をして頂けないでしょうか。 特に府立病院の駐車場の街灯はかなり明るく遮る木などが無いので川の方まで照らしています。これらの照明はホタルの時期5月下旬から6月末までは暗くする工夫は出来ないでしょうか。 町の真ん中を流れる川に生息するホタルを大事にして頂き、世界に誇れる高野川鴨川にしてください。
D	鴨川に子どもたちの水遊び場の設置する	魅力の発信	鴨川に沢山ある浅瀬や河岸を利用して、子どもたちの遊び場や川の観察場を設け、子どもたちに鴨川に親しみ、鴨川を大切にすることを育てる場としてはどうか 具体例として、柵野あたりに水遊び場(天然のプール)を作ることを提案する。
	鴨川の生態系の保全策について	自然生態系	鴨川は、豊かな生態系を擁しており、それらの持続的な保全策を、鴨川の他の保全策(保全・改修工事など)とうまくバランスをとりながら進めていく方を確立していく必要があると考える。
	鴨川堤の景観保全について	鴨川河川整備計画	鴨川堤の補修工事を見ていると、美観を重視した整備策が採られているせいか非常に人工的で冷たい感じがする。やはり昔から長い間、歴史を刻んできた鴨川の景観としては、少々粗野であっても出来るだけ自然のままの暖かい雰囲気を壊さないよう、配慮したものが望ましいと考える。例えば石積みの代わりに北山の廃材(間伐材)を利用するなど一考であろう。また、二条橋以南の堤にはもっと植樹をして、街中の緑を増やすことに貢献するのが望ましい。

提案者	題名	分類	内容
	鴨川の自転車道の設置について	河川の利用	最近、自転車で散歩する人が多くなってきている。その際に、乗り心地の良い土質の柔らかい所や芝生の上を走る人が多く、芝生が剥がれたり、乱雑な道(自転車の走行跡)が出来たりして、堤の景観を損ねている。これらの防止策として、自転車の乗り入れ(走行)道の設置による規制を行った方がよいと考える。
	鴨川上流域(北山など)の保全策について	河川環境	鴨川の上流域の山の保全の一環として、山で切り出される廃材(間伐材など)を鴨川堤の遊び場・休息の場を利用してはどうか。 例えば、廃材でベンチ・遊具や東屋を作ったり、堤の石積みの代わりに廃材を利用するなどがあげられる。
E	府民会議提案事項	中州管理 河川環境 魅力の発信 ホームレス問題 河川の利用	<p>中州、寄り州問題 みそそぎ川の御池～下流～五条は撤去 本流の中州、寄り州流域よって検討/防火用水、景観、ゴミの蓄積 鴨川記念植樹エリアを流域ごとに設置(鴨川基金) 鴨川四季の歌(CD作製) 四季折々の写真コンテスト 子どもたちによる「絵画コンクール」 俳句会 鴨川コンサート等の開催 鴨川文化・歴史資料館(既存の府の施設を活用) 歴史等の高札の設置 御池～五条の河川の公園化 流域住民団体による環境等の維持管理(鴨川流域ネットワークの構築) 橋下の不法占拠住民対策 都市河川として増水時の安全管理対策情報を府民に見える環境を(鴨川河川敷にこられている方に注意を促す対策の検討) 北大路～葵橋左岸の整備(特に境界線の明示と景観) 葵公園の活用 五条～下流域の整備計画 鴨川に流入する農業用水や下水等の水質等各流入口下流域で京都市と協調して定期的に調査(6ヶ月に1回程度)</p>
	中州の問題	中州管理	ゴミがたまるから中州を除去するというのは本末転倒。ゴミはゴミの問題として考えるべきだと思います。河川法の中に「河川環境」の重要性が位置づけられたことでも分かるように、水辺の環境は生態系が一番豊かなところで、治水の妨げにならない程度の中州の保存が望まれます。現在の鴨川はとても良い状況といえます。生き物が生活できる程度の刈り残しに配慮された除草方法など、京都府の英断に感謝しています。

提案者	題名	分類	内容
F	カワウ対策「ロープ」について	自然生態系	漁協が稚魚を放流されたあと、カワウのみならずサギ類が稚魚をねらいます。その対策として、ロープでの追っ払いなど、病む終えない防除対策だと思っています。但し、透明のてぐす等の使用は控えていただきたい。なぜなら目に見えないてぐすには野鳥が翼を引っ掛け、傷口からの出血によってじわじわと死に至ります。防除の目的で張るのなら目に付き易い派手な糸を張っていただきたい。景観が悪いと思われる方、野鳥の命のために僅か数ヶ月のことですからご辛抱下さい。
	野鳥の生息と河川改修の関連性	自然生態系	水辺にすむ野鳥の繁殖期に(2月頃から6月頃)中州や寄州への進入は極力控えていただきたい。その時期には多くの野鳥が一生懸命子育てにはげんでいます。小さな草に身を隠しながらヒナを育てています。それでもカラスやトビに見つかって食い殺されてしまいます。天敵と必死で戦っている野鳥たちですが、浚渫という河川整備事業の前に彼らはあまりにも無力です。時々、降水量が多かったりすると、急激な流れが中州の彼らを飲み込んでしまうこととなります。自然には逆らえませんが、少しの配慮で彼らの命を守ってやることができます。最近になって浚渫等の事業について行政から事前説明が頂けるようになってきました。差し障りのない時期をこちらから提案するという計らいが可能になってきています。(感謝)
	鳥類(カモ、ユリカモメ)の餌付けの問題	自然生態系	野生の生きものは自然のままにすべきだと考えます。度を越えた野鳥への餌やりは「百害あって一利なし」です。今、東京ではメタボの野鳥が北の国へ帰れなくなったとか、また、増えすぎた野鳥が及ぼしている人の住む環境への被害を少しでも知っていただきたいと思います。(特にカラスやドハト)
	ゴミの問題	河川の利用	鴨川公園にゴミ箱を設置しないで頂きたい。どうしても置くのなら人の手しか入らないような物にするべきだと思います。カラスがゴミ箱から袋をくわえて飛んでいる様子は滑稽にも見えますが・・。特に下流に多い自転車等の不法投棄については、早いうちに徹底的に捨てた人を捜し出すこと、調べれば分かるのですから。
	中州対策による景観保全、治水について	中州管理	上流からの土砂が堆積し、景観を悪化させているだけでなく、治水上も問題がある。一定期間ごとの土砂の撤去が必要である。鳥類の保護が必要であるとすれば、上記の阻害要因を考慮して、岸辺等に若干の州を残すことも考えられる。
	河川敷の整備方針について	鴨川河川整備計画	鴨川の景観・植物の育成・住民の楽しみを十分考慮した河川敷整備政策を定めてゆく。方向として、景観・植物の育成を重視しつつ、特定地域に人工物を設置し、府民・市民の憩いの場所とする。(スポーツブロック・遊具設置・花壇ブロック等)遊歩道沿いでの芝生の一般化とその保護メンテを十分行う。「禁止」標識は最小限にとどめること

提案者	題名	分類	内容
G	「山・水」と「さくら」の一体的景観を守り育てる。(開花時期のみならず、新緑・紅葉等四季を通じて)	河川環境	鴨川と桜の景観は、ある程度認知されているが、特にさくらの保護・育成により、全国有数の風景とする。(メディアも活用) しはん桜並木、半木の道のベニシダレは特に老木化、衰弱している。後継育成が必要とされる。 鴨川のさくら空白地帯に植樹する。 現在、堤防はソメイヨシノが主一本であるが、単木で珍しいサクラを点在させる。(解説版つき) (それぞれの橋の間を単位として特定樹木並木を保全育成することも)
	鴨川に関するイベントの新設について	魅力の発信	鴨川クリーン・キャンペーン 河川敷・河川内・堤防道路等鴨川全域で清掃を行う。(年2回程度。学校・団体も参加・賀茂街道2時間通行止め) 鴨川夏祭り大会 地域限定で各自治体連合会参加のまつり(冷芸、カラオケ、物産展、屋台など)を開催する。 鴨川からの五山の送り火観賞(お祈り)キャンペーン 各橋上からのお祈り時、各企業、各家庭で1灯だけ点灯。 (要防犯)府立植物園オープン・キャンペーンさくら開花時期等、植物園西側サイドを解放(要設備変更)「半木のさくら」、鴨川河川敷との一体的オープン観賞を行う。
	鴨川の世界遺産登録に向けて	魅力の発信	鴨川の歴史的・文化的価値を認識し、すぐれた自然景観を更に育み、後世に残したい。 その文化的遺産と自然遺産を兼ねそなえた「複合遺産」として世界遺産への登録をめざす。 そのためには関連する全ての機関・組織・人材が力を合わせて諸問題を克服し、真の実現に向かって努力すべきである。 このことは「世界遺産登録」という事象だけでなく、実質的な鴨川の育成に向かって、京都、日本、国際的貢献を果たすものである。
	「鴨川・子供塾(仮称)」の設置について	魅力の発信	〈目的〉鴨川の未来を担う子供達(特に流域の)に、鴨川の環境保全、及び自然災害対策の重要性について自ら体験しながら学んでもらう。 〈具体例〉流域の各小学校の新六年生(新五年生)を対象として、1小学校あたり5人ぐらいの児童を選出してもらい、年に2回程度のペースで、実際に鴨川をフィールドワークしながら自然環境保全、自然災害対策について学んでいただく。人数は、小学校の数×5人(交代制)ぐらいか。そこで学んだ児童達には、後日学校へ帰ってから、クラスにて学んだ事の報告をお願いする。これにより、鴨川の未来を担う子供達に「鴨川の環境保全、自然災害対策」の重要性について理解してもらうことを最大の目的とする。

提案者	題名	分類	内容
H	冬季に、「鳶の増加」を因とする「ユリカモメの飛来減少」に対する、その対策について	自然生態系	鳶もゆりかもめも同じ鳥であるが、「ゆりかもめ」は冬の鴨川、冬の京都の風物詩であることを考えるとき、やはり何らかの対策を講ずべきと考える。
	公衆トイレの増加は必要であるが、その適正数と適正間隔について	河川の利用	公衆トイレは多ければ良いというものではなく、基本的には、橋と橋のちょうど中間に一箇所づつあれば便利であると思う。
	「美しい鴨(賀茂)川を残そう」に値する「美しさ」は「どんな美しさ」かを明確にする。	河川環境	<p>鴨川条例制定の狙いは「美しい鴨(賀茂)川を残そう」ですが、「美しい」と云っても、素朴な美しさ、華麗な美しさ、清楚な美しさ、雅やかな美しさ等、様々な「美しさ」があります。それぞれの「美しさ」でその「美しさ」を実現、維持するのに必要な事や方法が異なってきますので、まず、鴨(賀茂)川はどんな「美しさ」が相応しいのか、はっきりさせる必要があると思います。</p> <p>美しさの一つに「山紫水明」ともよく云われますが、その「山紫水明の美しさ」が京都盆地の北方の山々、北山から流れ出て、北から南に連なる小さい山々の緩やかな山並の東山の麓を緩やかに流れる鴨(賀茂)川の「美しさ」に一番相応しいと思います。</p> <p>京都の北山や東山は関東の山の様に険しく厳しい事もなく、田舎の山の様に素朴と云うか自然のままと云う感じでもなく、絵画の様な見る人の心を和ませる優雅な山並を持っています。そして、山麓は変わったと思いますが、北山や東山、西山の山頂がおりなす優雅な山並は多分、平安京のいにしえの頃とそう変わっていないのではと思われます。しかし京都の街や鴨(賀茂)川は時代とともに変わって来たと思いますが、今の時代でも「美しい」鴨(賀茂)川とするには北山や東山の優雅な山並にマッチした姿や形であるべきです。京都ならではの「山紫水明」の美しさを蘇らせ、永遠のものにする事が出来ると思います。</p> <p>そうした観点から、「美しい」鴨(賀茂)川への課題をきちっと明確に出来れば、その対応も効果的効率的に出来ると思いますので、まず「美しい」鴨(賀茂)川とはを明確にする事から取組むべきだと思います。そうなれば、北山や東山の山並と鴨(賀茂)川の「山紫水明」で世界遺産にもなり得ると思いますか？</p>

提案者	題名	分類	内容
	葵祭は賀茂の祭であり、賀茂(鴨)川のイベントとしたい。又鴨(賀茂)川とその背景の北山や東山の山並を世界遺産に！	魅力の発信	<p>東山や北山もその山麓は時代とともに変わってきているが、その山頂の山並は平安京の頃ともほぼ変わっていないのではと思われます。街中を流れる鴨(賀茂)川は時代時代の影響を受けてきたが、周囲の山並に合せてきれいにすれば、都に選んだ頃のきれいな景観を取り戻せて、世界遺産として誇れるものとなると思います。</p> <p>平安時代の「山紫水明」と言われていた美しい水の都の京都は現在より西に位置し、鴨(賀茂)川は東の外れだったが、「山紫水明」の流れは、堀川や西洞院等、洛中を北から南に流れる幾つもの整備されたさらさらと流れるせせらぎの流れが醸し出していたものです。せせらぎの岸には柳や桜等の木々が植えられ、優雅な趣を濃くしていたと思います。又そのせせらぎは夏の暑さを和らげる天然のクーラの役割を担うなどの実利もあり、「山紫水明」と多くの平安人に敬愛されていたと思います。住民の増加や戦禍でせせらぎの流れも消失していくとともに、京の都は、せせらぎの流れを求めて、鴨(賀茂)川のある東の方へ移り、東山が近くなり、「山紫水明」の趣はビルが建てられる様になっても、幾分なりとも保たれて来たと思われます。鴨(賀茂)川の流れを優雅な山並に合ったものにする事で、世界中何処にも無い優雅な日本庭園の様な大きい景観をつくりだせると思います。</p>
I	中州を除去し、川幅いっぱいの綺麗なせせらぎの清流を回復維持する	中州管理	<p>西賀茂橋と北山大橋の間の賀茂川は、中州が放置され、大きくなって、川幅の8か9割を占め、ゴミも溜まって汚く、中州の間の狭い所を水が急流となり、危険で安心して水と親しむ事も出来ないが、中州を取除き、流れを川幅いっぱいのゆるやかな清流を取り戻し、安心して水と親しめる様にする。</p> <p>大きな中州の除去は増水時の流水能力の確保にも必要と思われる。</p> <p>せせらぎの清流は見る人の心を清くし、美しいものがわかる感性、美しいものを大事に思う文化心が育てるに効果的だと思います。それは人を大事にする優しさにも通じると思います。</p> <p>中州は鳥の巣をつくる場所が必要とかで、数年前から残される様になったとかですが、鴨(賀茂)川は山が近く、鳥の巣は山の方が安全でいいのではと思います。大都会の中を流れる鴨(賀茂)川は汚れ易く、又浄化能力も低く、河川敷の動植物や水量等の鴨(賀茂)川に関係する多くの要素の微妙なバランスの上になりたっていると思いますので、中州を除き、バランスを取戻し維持する事が大事だと思います。</p>
	鳥等に餌等を与える事を禁止し、必要以上に鳥が増え、堤防の木が鳥に食い荒らされて枯れるのを防ぐ	自然生態系	<p>鳥に餌をやる事を禁止すべきだと思います。鴨(賀茂)川が養える数以上の鳥が増える事になり、周りの住居地域に糞等で、川や河原、周辺の住宅地域が汚され、汚染被害や健康被害を訴える人も少なくない。</p> <p>又鳥は堤防の木の新芽を啄ばむ時、小枝を啄ばんで落とすので、木の成長力をそぐことになる。鳥の数が多くなると、堤防の木が枯れる事にもなる。</p>

提案者	題名	分類	内容
	橋の下の不法占拠を排除し、大きな音のする楽器等の練習に使える様にする	ホームレス問題	橋の下を不法に占拠し、汚い物を拡げたり、洗濯やし尿や汚物を川に流して川を汚したり、悪臭を放ち、側を通るのも怖い人々が居る。土木事務所の人に云うと、人権にうるさい弁護士がうるさく、反対するし、話してみると彼らも案外いい人だと云って、黙認する姿勢で、不法占拠者も咎められないからと、態度が大きく、改まる気配のかけらも見られない。生きる権利はあると思いますが、不法に占拠する権利はないと思います。自分さえ良ければ良いと云う風潮を助長する様な事は社会全体として心すべきと思われます。橋の下の不法占拠は荷物も多く持ち込まれていて、増水時の川の流れを阻害し、洪水の原因の一つになる。 大きな音のする楽器の練習を堤防の内側ですると、周りの住宅等に結構、響き、うるさい、同じところを何度も練習するので、耳障り、特に病人等には苦痛になるとような事も少なくないようで、橋の下の音が外に響きにくいところで、練習できる場所を確保し、心置きなく練習できるようにしたい。
	堤防法面の不法占拠を排除し、桜並木を一層整備し、桜の名所にする	河川環境	葵橋より上流で東岸の外堤防の外側法面を占拠し、あたかも自分の土地の一部であるかの様に塀をつくって囲っている処がかなりある。そうした不法占拠も止めさせ、堤防を綺麗にするべきだと思います。 堤防の桜並木を更に整備し、鴨(賀茂)川で、より多くの方が桜を楽しめる、より美しい鴨(賀茂)川を実現する。
	禁止区域を拡大し、全河川敷でのバーベキューを禁止する	河川の利用	バーベキューの禁止区域を今は限定されていますが、鴨(賀茂)川の流域全部で全面的に禁止とすべきだと思います。曖昧さを残さない方がいいと思います。 後のゴミを片付けずに帰る人も少なくない。
	サッカーやアメリカンフットボール等の周りの人に危害を及ぼす危険度の高い利用方法は禁止する	河川の利用	河川敷でサッカーやアメリカンフットボール、グランドホッケー等をしているのを見掛るが、側を通る時、たまにボール等が飛び出したりして、側を通るのも、ひやひやもの時があるので、危険性の高い運動は禁止にすべきだと思います。いつボールが飛んでくるか、冷や冷やししながら側の歩道を歩いているのが実情です。
	飛び石の橋の設置箇所を増やす	河川の利用	北山大橋より上流にも川の中を渡れる飛び石橋を設置し、鴨(賀茂)川をより近くで接しられ、又川の中から周りを見る事で、川がどんな環境の中流れているかを知り、川に興味をもち、綺麗にする必要性を理解し、川を大事にする気持ちを育み、川を綺麗にする人を増やし、川を汚さず、綺麗にしたい。